

CHRONOLOGY

2015 - 2016 - 2017 - 2018

2015

大村智氏が

ノーベル生理学・医学賞を受賞

*2016年に長崎大学リレー講座にて講演

梶田隆章氏がノーベル物理学賞受賞

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界遺産に登録

安全保障関連法が成立

福山雅治氏が結婚

2016

熊本地震が発生

選挙権年齢を20歳から18歳に引き下げ

大隅良典氏がノーベル生理学・医学賞を受賞

*2019年に長崎大学リレー講座にて講演

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック開催

アイドルグループSMAP 解散

2017

国連会議、核兵器禁止条約を採択

ドナルド・トランプ氏 米大統領就任

プレミアムフライデー開始

九州北部豪雨

桐生祥秀選手 男子陸上100メートル
9秒98の日本新記録

14歳のプロ棋士誕生

藤井聡太氏 最年少記録更新

カズオ・イシグロ氏にノーベル文学賞

2018

平昌オリンピック・パラリンピック開催

大坂なおみ選手

日本人初のテニス4大大会制覇

安室奈美恵さんが引退

本庶佑氏がノーベル生理学・医学賞を受賞

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」
が世界遺産に登録

表紙

長崎大学水産学部附属練習船 「長崎丸」

2018年3月26日に竣工した4代目長崎丸が、出島岸壁に寄港した際の写真です。長さ68.93メートル、幅12.3メートル、総トン数1,131トンの白と青を基調とした船は、長崎の景色に似合います。竣工してから早1年、五島海域から東シナ海まで、国際洋上キャンパスとして活躍しています。

CHODAI DOSO 2019

Nagasaki
University
Alumni
Association



国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

2015 - 2016 - 2017 - 2018



MESSAGE FROM THE PRESIDENT

平成最後の卒業となる30年度卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

鎖国の最中であっても西洋文化が上陸した長崎、「文明開化は長崎から」とも言われている長崎で皆さんは自分の専門性を磨き、自ら学びを深める方法、若者らしい想像力と行動力を手にしたことと思います。困難な課題や危機を自ら感じ取り、それに対応する方法を考え決断し、そして実行に移す。また失敗した場合もその過程を振り返り、粘り強く次の挑戦に向かう、このように現場に強い力を、それぞれの個性にあわせた多様な考え方で学び取り、巣立って行くものと確信しています。正直に言いましょ。学問だけが学びではありません。社会で独り立ちすることを目的とした生活のあらゆる場面が学びの宝庫であり、皆さん一人一人にとって、社会で役に立つものはそれぞれに異なり、時に意外なものかもしれません。一人一人が考えて、かつ行動できれば、何もかもが糧となり得ます。

ここで、未来を切り開く皆さんに、「夢」という言葉を贈ります。人生の節目において、新しい一步を踏み出す時、誰も将来に対する大きな希望とともに、見えないものへの不安を感じるものです。簡単に答えの出ないものに出会っても、夢に向かって、諦めず粘り強く対応し続けることが極めて大切です。

皆さんの母校長崎大学は、すなわち home port 母港であり、いつでも皆さんを待っています。長崎を離れる皆さんも4年間または6年間学んだ本学を誇りとして、いつでも学び直しに、また懐かしい恩師との語らいや後輩の激励に立ち寄って下さい。長崎の港、山、空が皆さんを温かく迎えるでしょう。これからの皆さんの豊かな活躍を祈念し、贈る言葉とします。

長崎大学長 河野 茂

CHODAI DOSO 2019

河野

茂

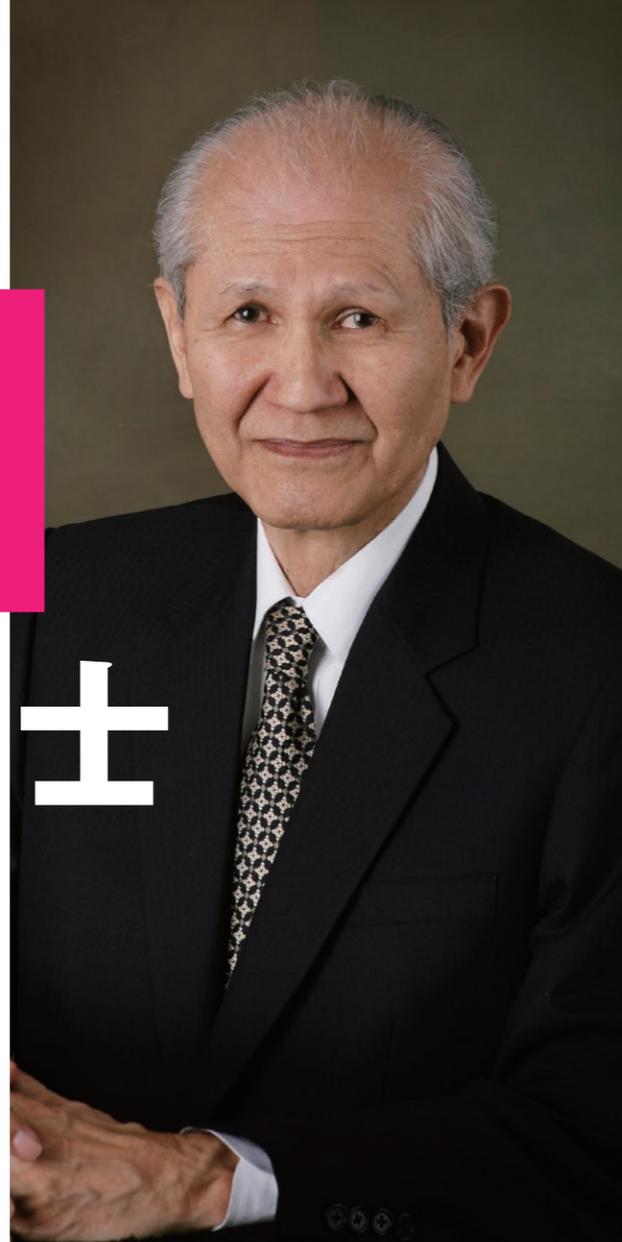




1

下村脩博士 逝去 2018.10.19

長崎大学名誉博士である下村脩先生が2018年10月19日、永眠されました。享年90歳でした。下村博士は、薬学部の前身である長崎医科大学附属薬学専門部の卒業生です。ご卒業後は、名古屋大学やプリンストン大学で研鑽を積まれました。そして、2008年にはノーベル化学賞を受賞されました。2009年に本学で行われた受賞記念講演会では、「どんな難しいことでも、努力すれば何とかかなる。絶対あきらめないで成功するまで頑張ろう」という若者へのエールをくださいました。2018年12月2日には、お別れの会が開かれ、大先輩との別れを惜しみました。



2 学長交代 2017.10.1



2017年10月1日、河野茂学長が就任しました。就任から1年が経ち、情報系新学部や多文化社会学研究科博士後期課程の設置計画など、就任時に掲げた「社会に貢献する志の高い学生を育てる教育」「ヒトの幸福と平和を希求し、科学を用いて世界に資する研究」「長崎の未来を創る大学」「教職員の多様性とやる気を生かす大学」の実現に向け、様々なプロジェクトが進行しています。

2016年4月14日、最大震度7を観測した「平成28年(2016年)熊本地震」が発生しました。長崎大学からも60名以上の学生が、熊本県阿蘇市等にて災害ボランティアとして活動しました。学生たちは、瓦礫の片づけや家屋の解体準備作業、古民家修復作業に精力的に取り組み、復興を支援しました。学生自身にとっても、大きな経験、学びとなった活動でした。



3 熊本地震 2016.4.14

2018.3.26 新・長崎丸 竣工

32年間活躍した三代目長崎丸に代わり、四代目長崎丸が建造されました。四代目には、最先端の設備が備わっており、三代目が東日本大震災の際に被災地に赴き支援活動を行った経験から、支援物資の輸送に配慮した設備も付加されています。コンセプトは、「東シナ海の水産・海洋科学をリードする国際洋上キャンパス」。水産学部生や他学部生のみならず、国内外の他大学の学生にも乗船してもらい、共に水産学、海洋学を探究する場を目指しています。



4

BSL-4施設の起工式が 2019.1.26 行われました 7

2019年1月26日、長崎大学が検討を進めているBSL-4施設の起工式が執り行われ、工事の安全を祈願しました。施設の建設工事は、2021年7月末まで行われる予定です。長崎大学は引き続き、施設整備と管理運営の両面において高度の安全性を確保し、本施設が、地域の発展にも貢献し、皆様に誇りに感じただけのよう全力で取り組んでいきます。
※感染症の脅威から生命を守るため、感染症の仕組みの解明、ワクチン・治療薬の研究開発や人材育成を行う施設。

「風に立つライオン」 「母と暮せば」 2015 8

2015年には、長崎大学に縁のある映画2本が公開されました。「風に立つライオン」では、1970年代にケニアでの医療活動に従事した長崎大学の医師が主人公のモデルとなり、医療技術協力やケニアロケのサポートを行いました。「母と暮せば」では、主人公の浩二が長崎医科大学学生という設定で、医学部を中心に資料集めやエキストラの出演などの協力を行いました。医学部記念講堂で行われた山田洋次監督の特別講義には、吉永小百合さん、二宮和也さんがゲストとして駆けつけ、会場は大いに盛り上がりました。また、良順会館では、学生主体の公開記念企画展が開催されました。



情報データ科学部(仮称)と多文化社会学研究科(博士後期課程)の設置構想 2018 5

2020年の開設に向けて、情報データ科学部(仮称)および多文化社会学研究科(博士後期課程)の設置を計画しています。情報データ科学部(仮称)では、これまでの工学部工学科情報工学コースを核に、データサイエンスの教育研究機能をブラッシュアップし、ビッグデータや人工知能を活用できる「インフォメーションサイエンティスト」、ITビジネスや医療情報解析に精通した「データサイエンティスト」などの実践的な人材を育成します。また、多文化社会学研究科(博士後期課程)では、人文社会科学系の超域的かつ俯瞰的な専門知である多文化社会学を修得し、21世紀社会の「多文化社会的状況」における諸問題の「問題本質の見極め」と「問題解決に向けた多様な解の提示」に取り組むことのできる、研究者及び高度専門職業人等の養成を行います。

6 熱帯医学・グローバルヘルス研究科の設置 2015.4

熱帯医学・グローバルヘルス研究科は、既存の学術境界を越えた新たな総合的アプローチにより、世界の健康問題の解決をめざす「グローバルヘルス領域」で、国際的に活躍できる人材を養成する大学院として2015年4月に設置されました。さらに、2018年10月には、高度な「知のプロフェッショナル」(博士人材)の育成を目的



とした文部科学省の卓越大学院プログラムに九州で唯一採択されました。採択された本学のプログラムは、この領域において世界トップレベルのロンドン大学衛生・熱帯医学大学院とのジョイント・ディグリー(国際共同学位)に象徴される強固な連携を中核として構築しており、地球規模の健康課題の解決に貢献できる人材を養成していきます。

「ヘルシーキャンパスプロジェクト」始動

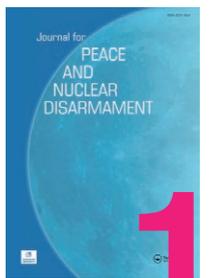
「ヘルシーキャンパス」とは、学生や教職員の健康増進と研究成果の還元を通じて、アカデミアとして健康長寿社会に貢献しようとする取り組みです。2018年7月6日に行われたプロジェクトのキックオフイベントでは、鈴木大地スポーツ庁長官、V・ファーレン長崎の高田明社長、園田裕史大村市長、沢水清明長崎県福祉保健部長などが講演や座談などを行い、華々しいスタートとなりました。このほか、長崎大学生協との連携のもと「5・4・3ヘルシー弁当」の販売を行ったり、全キャンパス禁煙化を推進したりするなど、学生・教職員の健康増進に寄与する取り組みが企画されています。



2018.7 9

核兵器廃絶を考える 国際学術誌J-PANDを発行

被爆地長崎から核兵器廃絶に向けて、英文ジャーナルJournal for Peace and Nuclear Disarmament(J-PAND)が2017年12月に創刊されました。核兵器廃絶研究センター(RECNA)が編集するJ-PANDの目的は、理論・実践の両面に関する研究を基盤としながら、核軍縮と平和の促進に寄与することにあります。年2回発行で、掲載論文等はすべて、英国テイラー&フランシス社のウェブサイトで無償提供されます。



2017 10

Student Activities

活躍した学生たち



ナガサキ・ユース代表団

2018年4月から5月上旬にかけて、「ナガサキ・ユース代表団」の第6期生8名が、ジュネーブで開催された「2020年NPT（核不拡散条約）再検討会議第2回準備委員会」へ参加しました。現地では、委員会の傍聴や各国の政府関係者との対談、自作のショートフィルムの上映など、精力的に活動しました。帰国後は、写真展の開催や全国の教育機関への出前講座を行い、自らの経験を多くの人に共有しています。

多文化社会学部生がベトナムの「長崎くんち 御朱印船」公演に参加

2017年11月、多文化社会学部生が中心となって活動している国際交流サークル「ふくろう」は、長崎県派遣団の一員として、「御朱印船プロジェクト」に参加しました。日本とベトナムの交流促進などを目的として、ホイアン市で「長崎くんち 御朱印船」の公演を行うプロジェクトです。ホイアンは、江戸時代初期に日本人町が存在し、長崎とも歴史的なつながりの深い街で、今回のプロジェクトで新たなつながりがまた始まりました。



よさこい部「突風」 YOSAKOIさせば祭りで大賞

よさこい部「突風」が、2018年10月19～21日に開催された「第21回YOSAKOIさせば祭り」で大賞及び青春グランプリYOSAKOIソーラン祭会長賞を受賞しました。西日本最大級のイベントで大賞を受賞するのは、9年ぶり3度目の快挙です。代表の宮崎健太朗さん（教育学部3年）は、「一人ひとりが輝けるように心がけて取り組んできたことが、観ていただいた方々に伝わった」と喜びを語りました。

ながさき海援隊 平成30年度ボランティア活動奨励賞を受賞

海岸清掃のボランティア活動を行っている「ながさき海援隊」が、公益社団法人長崎ボランティア振興基金から、平成30年度ボランティア活動奨励賞を受賞しました。県内から4団体が表彰され、海援隊のほか、地域で長年活動している団体が3組表彰されました。その中で、「ながさき海援隊」は、若者のボランティア活動として地域社会に大きく貢献した功績が認められたの受賞となりました。



長崎ブレイクスルー

「長崎ブレイクスルー」は、29の企業が新興アジアを中心としてグローバル展開に活路を見出すため、長崎県下11の大学と長崎県、産業界が協力のもと、約100名の学生が19のプロジェクトに分かれ、事業化を検討し、具体化を進めているプロジェクトです。2018年4年には、「長崎ブレイクスルー+」として一般社団法人化、同年8月には一部の学生を海外に派遣し、海外インターンシップを行い、海外の課題やニーズの現地調査、分析を行いました。2019年3月には、学生による「長崎創発」グローバル投資コンペ「ビジネスくんち」を開催し、成果を発表しました。



NPO法人Slopeers (スローピアーズ)

長崎を盛り上げようと、経済学部約30名の学生が、NPO法人「Slopeers」を立ち上げ、活動しています。坂の街である長崎の魅力を紹介する修学旅行のプランの企画や、学生目線のカフェ紹介サイトの運営など、大学で学んでいる経済の知識や理論を実践し、「みんなに愛される長崎県」の実現を目指しています。



「水産学部学友会と海洋研究会」が国土交通大臣表彰を受賞

水産学部学友会と水産学部海洋研究会が平成30年「海の日」海事関係功労者国土交通大臣表彰を受賞しました。水産学部学友会と海洋研究会は、漂着ごみの問題を機に、平成9年から海浜清掃活動を毎年行っており、現在では夏季と秋季の年2回、水産学部生60人～100人が参加して長崎市近郊の海水浴場で清掃を行っています。同賞は長年にわたり実施している海浜清掃活動が継続的に環境美化に貢献していると評価され、授与されたものです。



認知症予兆検知ロボットの開発に成功

工学研究科の小林透教授は、人工知能(AI)を活用して認知症の予兆を検知する認知症予兆検知ロボットを開発しました。これは、高齢者宅に設置されたロボットが高齢者との問答から、認知機能の低下度合いを数値で評価するというものです。

2018年12月からは長崎大学病院での実証実験を開始しており、今後さらにロボットのコミュニケーション能力を高めて、高齢者との日常会話の中で認知症の予兆を捉えることを目指します。



LINEロボット

医療機器メーカーのテルモと共同研究講座を開設

2019年1月、医療機器メーカーのテルモ株式会社との共同研究講座「消化器再生医療学講座」を開設しました。講座開設のきっかけとなった「自己筋芽細胞シートを用いた消化器再生医療と腹腔鏡デリバリーデバイスの開発」は、いずれも本学が特許を出願しており、今後臨床研究への展開も視野に入れています。この講座では、食道がんの合併症予防で細胞シートを使った臨床研究に実績のある移植・消化器外科(江口晋教授)と複数の診療科が、細胞シートの再生医療製品を開発・販売するテルモと協力して臨床応用を目指します。また、内視鏡などを使った体に害の少ない治療では、細胞シートを臓器まで届ける医療機器が必要で、腹部に1センチほど開けた穴からデバイスを入れ、十二指腸の外膜に細胞シートを貼ります。江口教授らは、工学研究科(山本郁夫教授)と共同で腹腔鏡での細胞シートデリバリーデバイスを開発研究しています。

日本産ヒョウモンダコの毒保有量と体内分布

ヒョウモンダコは猛毒のテトロドトキシン(TTX)を保有する危険生物として知られ、近年日本沿岸で出現報告が相次いでいます。水産・環境科学総合研究科の竹垣毅准教授と高谷智裕教授らの研究グループが調査・測定し、採集した13個体のヒョウモンダコを分析したところ、全ての個体からTTXが検出されました。TTXは唾液腺だけでなく筋肉や表皮からも検出されており、ヒョウモンダコがTTXをカニや貝等の餌生物を採餌する際に利用しているだけでなく、捕食者からの防衛や反撃にも利用していることが示唆されました。



次世代洗浄装置「メディカル・ナノ・ウォッシャー」完成

長崎大学、協和機電工業株式会社、株式会社クリプソンが共同開発した、精密医療機器対応の次世代洗浄装置が完成し、2018年9月に、その第一号機を長崎大学病院に導入しました。内視鏡手術において使用される機器は、複雑な形状の精密医療機器であるため、その洗浄・消毒のほとんどの工程が手洗いに依存している現状があります。洗浄・消毒の過程が不十分であることによる医療機器の再使用における二次感染リスクが問題となっており、解決策として、「メディカル・ナノ・ウォッシャー」の開発が行われました。今後、性能確認のための臨床試験を行ったうえで市販の予定です。



Nagasaki University 長崎大学の 研究活動

RESEARCH



赤潮サンプリング飛行ロボット (AKABOT)

大島造船所の寄附講座「船舶海洋人材育成講座」が開設

2019年1月、株式会社大島造船所による支援を受け、「船舶海洋人材育成講座」が開設されました。この講座は、同所との包括的連携に関する協定の一環として、工学研究科に開設されたものです。元三菱重工業長崎造船所長の橋本州史教授が担当し、船舶海洋関連教育の将来への継承発展のための人材育成、産業界を担う有為な人材の育成を目指し、関連産業界・教育研究の進展及び充実に資することを目的としています。



ケシゲンゴロウの幼虫によるカイミジンコの捕獲方法が明らかに

発見されてから90年以上、どのように使われているのか不明なままだったゲンゴロウの一種・ケシゲンゴロウの幼虫の頭部中央にある長い突起が、二枚貝のような殻を持つ小さな甲殻類・カイミジンコを効率的に捕食することに役立つことが明らかにされました。これは、教育学部の大庭伸也准教授らの研究グループにより、ケシゲンゴロウの幼虫が頭部の長い突起と大アゴを用いてカイミジンコを効率良く捕獲すること、殻を破壊することなく内部を消化・吸収していることが確かめられたものです。

このような捕獲方法はこれまでに知られていなかった方法として注目されるだけでなく、ゲンゴロウ科の約半分を占めるケシゲンゴロウの仲間が、陸水環境でどのように進化・多様化し、生態的ニッチを獲得したのかを解明するのに貢献すると期待されます。



麻酔を用いた歯科治療に役立つ「舌圧子付き咬合紙ホルダー」が発売

病院特殊歯科総合治療部の田上直美准教授が考案し、工学部の久田英樹技術専門員が試作品作製に協力した医工連携の成果の一つである「舌圧子付き咬合紙ホルダー(商品名:TNG咬合紙ホルダー)」が、株式会社モリタより2018年6月に販売開始されました。

歯科治療の際には歯列の噛み合わせ確認が必要ですが、全身麻酔もしくは静脈内鎮静法にて歯科治療を行う場合には、麻酔によって弛緩した舌が歯列より外側に、はみ出るためうまく行うことができません。そのため従来は医師以外に、患者の舌を押し込むための助手がサポートとして必要でした。また本製品は、通常の治療においても舌肥大や肥満傾向の人に有効であることが判明しており、患者および治療者の負担軽減に繋がります。

家庭生活に伴って排出されたCO2の都道府県別変動要因を特定

水産・環境科学総合研究科の重富陽介准教授(発表当時助教)らの研究グループは、日本の47都道府県における日常生活(家庭内のエネルギー利用を対象とし、乗用車の利用を除く)に伴う二酸化炭素(CO2)排出量を人口動態・エネルギー消費・エネルギー技術の観点から6つの要素に分解し、1990年から2015年までの都道府県ごとの排出変化の特徴を可視化しました。

特筆すべき研究成果として、少子高齢化の進行が33道県における家庭からのCO2排出量を減少させる動きをしていた一方で、エネルギー消費形態の改善によって排出量の削減に成功していたのは神奈川県、東京都、山梨県、兵庫県、沖縄県、大阪府、および広島県のわずか7都道府県のみであったことが明らかとなりました。

本研究成果は、国として一律の温暖化対策を講じるのではなく、各都道府県の社会状況に鑑みて優先的に取り組むべき対策方針を個別に把握する重要性を示すとともに、それらを円滑に実施するための地方行政のイニシアチブ増進に繋がることも期待されます。

また、関連情報は長崎新聞やオンラインビジネスメディアJapan Business Pressにも取り上げられました。

マグロ養殖基地化を実現するIoTシステムの実証事業が採択

海洋未来イノベーション機構は、総務省IoTサービス創出支援事業として、五島・マグロ養殖基地化を実現するIoTシステムの実証事業の採択を受けました。

マグロ養殖において赤潮対策が喫緊の課題となっており、ドローン型飛行ロボットにより多地点採水および画像解析による有害プランクトンの判別、空中からの赤潮分布状況の把握、クラウド経由での漁業者への赤潮状況の早期通知を実施するものです。マグロは通常の魚種に比べ赤潮に対して脆弱で、速やかに正確に赤潮情報を提供し被害の回避を目指します。

実施地域は五島で、県内の研究機関や自治体、地域企業等の協力を得て実施します。開発したシステムはマグロ以外の養殖や県内外の赤潮問題を抱えている地域にも展開できます。

長大の4年前と今!

2015→2018

4年間の変化 大学あれこれ!

→2017年 ゲストハウス建設



2017年の医学部創立160周年を記念し、長崎医学同窓会様から、新ゲストハウス「レジデンシー精得館」が、坂本キャンパスに寄附されました。このゲストハウスには、外国人留学生・研究者が滞在するほか、学生・教職員の学術交流・友好の場としても活用されています。「精得館」という名称の由来は、長崎海軍伝習所教官であったオランダ海軍軍医ボンベが設立した養生所と医学所が、精得館と呼ばれていたことによります。

留学生数 427人→576人

留学生数の増加は、増加率にしてなんと約35%増!2015年には、多文化社会学部1年生と留学生が共同生活を行う国際学寮ホルテンシアが誕生しており、留学生の受け入れ体制や日本人学生との交流環境が充実しています。
※いずれの年も5月1日現在の数字。



附属図書館の 蔵書数 103万→104万

4年間でなんと約1万2000冊も増加しています。特に、和漢書の増加が約1万冊と、大きな割合を占めています。貸出冊数も約7万3000冊にのぼります。皆さんの思い出の一冊は何でしょうか?

※いずれの年も4月1日現在の数字。



食堂 メニュー数 →306品



3キャンパスを合計し、約300種ものメニュー数を誇ります。この数は九州内でも特に多く、独自のメニューが盛りだくさん。長い間、バランスのとれた種類の豊富さを誇っています。中でも人気No.1メニューは、ちゃんぽんなのだそうです。月ごとのおすすめメニューや行事に合わせたメニューなど、毎日通っても大満足です。皆さんは、何種類制覇しましたか?

→2016年 地域科学科目 長崎地域学

地方創生人材の育成のための新しい学士プログラムが構築されました。プログラムのうち、地域科学科目(長崎地域学)は1年次の必修科目で、学内外から講師を招聘し、長崎の地勢、歴史、文化、産業などの基礎知識を学び、地域の特色や優位性についての認識を深めます。長崎を語り、長崎の未来を考える「長崎スペシャリスト」になれるはず!

女子入学生の数 2907人→2997人

一見少なく見えるこの数値ですが、2011年と2014年を比べると、37人増になるため、実は増加数としては、多い数値です。2014年に多文化社会学部が設置され、約7割が女性である同学部ができたことが要因と考えられます。4年間でそのような変化は感じられましたか?



サークル数 230団体

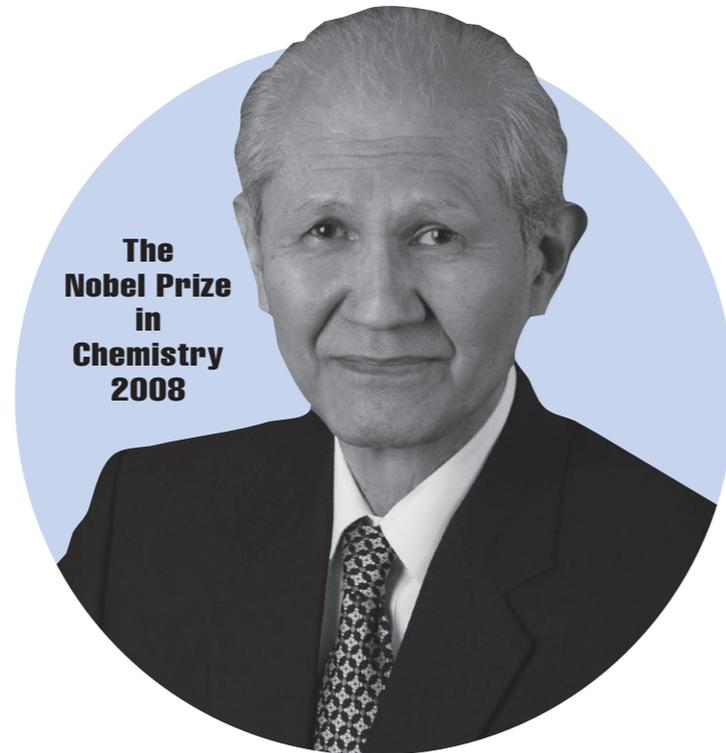
220団体

サークル数も、変化をみせています。2018年6月時点で、全学サークルは約120団体(体育系約70、文化系約50)、学部毎では約100団体(体育系約65、文化系約35)、その他の団体として、全学サークル連合と学園祭運営委員会が含まれます。サークル数は、その時々々の流行りを表しているのかもしれませんが、学生生活をより充実させてくれるサークル活動。後輩たちの活躍にも注目です!

Who's Who

Our University

偉大な先輩たち



The Nobel Prize in Chemistry 2008

下村 脩

2008年ノーベル化学賞受賞

薬学部 (旧:長崎医科大学附属薬学専門部)

世界で初めてオワンクラゲより発光タンパク質イクオリンと緑色蛍光タンパク質GFPを発見し、発光機構を解明。その後、種々の発光生物の科学的解明を行い、生物発光分野での世界的な研究者となった。特にGFPを発見したことは、生きた細胞内の特定の場所や機能タンパク質を蛍光標識して観察することを可能とし、遺伝子発現のレポーターなどに多用されるなど、分子生物学の分野に大きく貢献。これらが評価され2008年にノーベル化学賞を受賞した。

企業TOP

Senior Executives

大日本コンサルタント

代表取締役
社長執行役員

新井伸博

工学部



ヴィレッジヴァンガード コーポレーション

代表取締役社長

白川篤典

経済学部



上原成商事

代表取締役
副社長

上原晋作

経済学部



ダイトケミックス

代表取締役
執行役員社長

永松真一

工学部



カネミツ

代表取締役社長

金光俊明

工学部



福岡中央銀行

代表取締役頭取

古村至朗

経済学部



TOTO

代表取締役
社長執行役員

喜多村 円

経済学部



西部ガス

代表取締役
副社長執行役員

村瀬廣記

工学部



※掲載五十音順

秋野公造

医学部

参議院議員

草場道輝

水産学部

『週刊少年サンデー』で連載中の長大水産学部を舞台にした漫画『第九の波濤』の作者

国光あやの

医学部

衆議院議員

副島良彦

工学部

2015年より
佐賀県副知事

富岡 勉

医学部

衆議院議員

中村明俊

教育学部

『聖水』で第124回芥川賞受賞。ペンネームは青来有一

中村法道

経済学部

2010年より長崎県知事

福地茂雄

経済学部

アサヒビール社長・会長、日本放送協会 (NHK) 会長などを歴任

渡辺 航

教育学部

『週刊少年チャンピオン』で連載中の人気漫画『弱虫ペダル』の作者

INFORMATION

同窓会についての各種ご相談はこちらまで

校友会・ホームカミングデー

長崎大学広報戦略本部 校友会・基金室 〒852-8521 長崎市文教町1-14
TEL.095-819-2007 メール/kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp

多文化社会学部

絢翔会
メール/sghssdousoukai@gmail.com

教育学部

一般社団法人 長崎大学玉園同窓会
〒850-0029 長崎市八百屋町36
長崎県教育会館内
TEL&FAX.095-824-5494

経済学部

公益社団法人 瓊林会
〒850-0003 長崎市片淵4丁目2-1
長崎大学経済学部内
TEL.095-821-4567
メール/info@keirinkai.or.jp

医学部

長崎医学同窓会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4
長崎大学医学部内
TEL&FAX.095-848-5484
メール/ryojun_do@ml.nagasaki-u.ac.jp

歯学部

歯学部同窓会
〒852-8588 長崎市坂本1丁目7-1
長崎大学医歯薬学総合研究科 歯科補綴学内
TEL.095-819-7692
メール/dousoukai@ml.nagasaki-u.ac.jp

薬学部

長薬同窓会
〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部柏葉会館内
TEL&FAX.095-844-6383
メール/jimukyoku@choyaku.jp

工学部

工学部同窓会
〒852-8521 長崎市文教町1-14
長崎大学工学部工学科 社会環境デザイン工学コース
TEL.095-819-2622
メール/atada@nagasaki-u.ac.jp

環境科学部

緑友会
Facebook ページ
「長崎大学環境科学部同窓会 緑友会」

水産学部

鶴水会
〒852-8521 長崎市文教町1-14
長崎大学水産学部内
TEL.080-6471-5965
メール/kakusukai_jimu@yahoo.co.jp

熱帯医学研究所

熱研同門会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4
長崎大学熱帯医学研究所内
TEL.095-819-7803
メール/domon@tm.nagasaki-u.ac.jp

卒業(修了)証明書等の発行を申し込みたい

申込方法については長崎大学HP内「各種証明書の発行申込について」をご確認のうえ、
ご不明な点がございましたら、卒業した学部・研究科の担当係までお問い合わせください。

多文化社会学部	文教地区事務部学務課学務班(多文化社会学部)	TEL.095-819-2030
教育学部/研究科	文教地区事務部学務課学務班(教育学部)	TEL.095-819-2266
経済学部/研究科	経済学部支援課学務係	TEL.095-820-6311
医学部医学科	医歯薬学総合研究科学務課学務係(医学科担当)	TEL.095-819-7010
医学部保健学科	医歯薬学総合研究科学務課学務係(保健学科担当)	TEL.095-819-7909
歯学部	歯学系事務室学務係	TEL.095-819-7613
薬学部/研究科(博士前期)	薬学系事務室学務係	TEL.095-819-2416
医歯薬学総合研究科(博士/博士後期)	医歯薬学総合研究科学務課大学院係	TEL.095-819-7009
医歯薬学総合研究科(保健(修士))	医歯薬学総合研究科学務課学務係(保健学科担当)	TEL.095-819-7909
工学部/研究科	文教地区事務部学務課学務班(工学部)	TEL.095-819-2490
環境科学部/研究科(博士前期)	文教地区事務部学務課学務班(環境科学部)	TEL.095-819-2715
水産学部/研究科(博士前期)	文教地区事務部学務課学務班(水産学部)	TEL.095-819-2796
水産・環境科学総合研究科(博士後期/5年一貫)	文教地区事務部学務課学務班(水産・環境科学総合研究科)	TEL.095-819-2800
国際健康開発研究科/熱帯医学・グローバルヘルス研究科	熱帯医学研究支援課 TMGH研究科支援班	TEL.095-819-7583

校友会について

従来からの学部別同窓会とは別に、在学生、卒業生、教職員等が共に会員となって情報を共有し、交流・連携を深めるとともに、大学の教育・研究や社会貢献等の取組みに対する理解や協力を促進するために、2018年10月に「長崎大学校友会」が発足しました。大学に関する情報発信や会員相互の交流事業の開催等、卒業後も長崎大学への愛着と関心を共有いただくべく、活動を広げて参ります。

HPはこちら <http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/edu/alumni/index.html>

寄附について

皆様からの温かいご支援のもと、今後とも社会への貢献を目指して
いきたいと思っております。ぜひ、皆様のお力添えをお願い申し上げます。
寄附金のお申し込みについては、HPでご確認ください。

HPはこちら→



編集協力

◎中島瑞穂(工学部3年)
◎中尾彩乃(医学部2年)

編集・発行

長崎大学広報戦略本部 校友会・基金室
TEL.095-819-2007 FAX.095-819-2156
メール/kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp